

(別紙2) 平成 22 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079400372		
法人名	有限会社 田川徳星園		
事業所名	グループホーム 徳星園		
所在地	福岡県田川郡福智町神崎706番地2		
自己評価作成日	平成22年4月17日	評価結果確定日	平成22年5月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特に注力している項目は 医療連携 地域交流 快適な生活環境の構築等である。 については医療との連携が最重要命題のひとつと捉えており、緊急時も含めかかりつけ医に24時間365日いつでも連絡が取れる体制を整えるなど利用者の健康状態の変化に迅速に対応できるように平素より努めている。 に関しては関連施設(ケアハウス・障がい者施設他)との合同行事(例:敬老会・夏祭り・そうめん流し・もちつき等)は欠かさず行っており、その他にもボランティアや研修生を受入れている。ホームからは地域の文化祭へ作品を出展したり、講演会や歌謡ショーにお連れするなど社会との接点を得られる機会を適宜設けている。 は利用者にとって当ホームが快適な居住空間となっているかを常に考え、内外の住環境整備に留意している。又、食事には特に力を入れており、調理スキルの高いスタッフを雇用し、利用者一人ひとりの必要量や加リー-を勘案しながら栄養バランスのとれたおいしい食事の提供に努めている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者にやさしい福祉施設づくりを目指して、ホームの周囲に軽費老人ホームや母子生活支援施設、知的障がい者更正施設、身体障がい者通所授産施設が隣接している。敬老会・夏祭り・そうめん流し・もちつき等の多彩な合同行事に利用者が参加するなど、利用者一人ひとりが生きることへの楽しみと喜びを感じることができる誠心誠意の支援が行われている。管理者をはじめ全職員が「真心をあなたに」の理念のもとに博愛の精神をもって利用者と向き合い、心を込めたサービスの提供が行われ、利用者の手作り作品を地域の文化祭へ出展したり、講演会や歌謡ショーの外出支援など、利用者の個性を重視したおだやかで、さりげない支援が一貫して行われている。今後の発展が、大いに期待できるホームである。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年4月26日		

### 自己評価および外部評価票

ユニット名: 第一ユニット

(セル内の改行は、(Alt+Enter) です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念はもとより運営指針や職員の心構えを提唱し、常に利用者が地域の中で暮らし続ける事を考えていくサービスに日々邁進している。	「真心をあなたに」の基本理念を基に運営指針や職員の心構えを提唱し、博愛の精神をもって利用者が地域のなかで暮らし続けられる支援を行っている。カンファレンス時に理念に基づいたケアの内容について協議する等、理念の実践に向けた取組みがある。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣施設への訪問や事業者主催の行事への招待や買い物など地域とのつながりを常に心掛け実践している。	地域の文化祭へ利用者の作品を出展したり、地域の花火大会への見学や地域の小学生による和太鼓の披露等、自然に地域に溶け込んでいる。隣接する関連施設との合同行事へ地域の方を招待したり、研修生の受入れ等、地域交流に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	季節毎の行事や月例で行っている法話会などへご招待し多くの方の参加を得、ホームでの暮らしを直接肌で感じて頂く機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の開催を実施することでホーム活動や利用者の状況、サービス提供の報告をきちんと行うことができ、それを基に出された意見をサービス向上に繋げている。	利用者、家族、関連施設の職員等の参加のもとに2ヶ月毎に開催し、運営推進会議時にホームの活動状況や利用者の状況報告を行うほか、外出について助言をもらう等、会議を活かした取組みがある。今年の5月から2名の行政職員の参加が予定されている。	現在、地域関係者の出席が少ない状況での開催となっています。町内会長、民生委員、地域住民等への参加を呼びかけ、地域情報の収集やホームがかかえる課題の意見交換等、話し合いの場として活用されることを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政職員の定期的な来訪や保険者とする市長村にも電話相談又は、直接窓口へ赴くなどして問題の解決に取り組んでいる	行政のケースワーカーの毎月の訪問や利用者の状況報告、相談等を通じて、行政との連携を図る取組みがある。運営上の疑問点や利用者の対応等についてその都度、電話や窓口で相談を行う等、行政との連携を図る取組みがある。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの取組みを実践している。身体的拘束等の排除のための取組みに関する事業所の理念、方針等が記載された文書を提出している。	ケアカンファレンスにて身体拘束について協議し、身体拘束をしないケアや禁止となる行為について職員全体で確認している。身体的拘束等の排除のための取組みに関するホームの理念、方針等を明確にし、家族等に具体的に説明する取組みがある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場研修を実施 利用者の心身の状態の変化等細心の注意を払い利用者の安全確保に努めている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のしくみを正しく理解するため、パンフレットや参考資料等で学ぶ機会を設け、必要とする時に活用できるようにしている。	ホーム内で成年後見制度や日常生活自立支援事業についてのパンフレットや参考資料等を活用して職員が常に学ぶ機会を設け、職員全体で理解を深める取組みがある。制度に関する資料を用意し、契約時や必要に応じて、利用者・家族に説明を行う取組みがある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、入居契約書を基に説明を行い利用者、家族の都合を優先しゆっくりと話し合える時間を確保している。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は利用者への対応を率先して行い、誠意をもって苦情の解決に取り組み、職員と協議し知見を有する方と相談し運営に反映させている。	面会時や運営推進会議等に家族とのかわりを通じて、苦情等を表出しやすい雰囲気づくりへの取組みがある。苦情等については、全職員が内容を把握し、内容に応じてその場での回答や、職員全体で協議し、ケアや運営に反映させる取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が自由に発案、発言出来る様機会を設け、問題点、課題点を協議し改善を図っている。	管理者は、毎月の職員会議等で話しやすい雰囲気を作りながら、意見や提案を出しやすい環境を整えている。また、常に職員とコミュニケーションを図りながら、職員の状況を把握し、管理者やスーパーバイザーが相談に応じる等、職員が業務に専念できる配慮がみられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職員が向上心を持って働けるよう、あらゆる面において配慮し、働きやすい職場環境作りを実践している。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	窓口は広く制限は設けていない。働く意欲を第一と考え、採用にあっている。職員についても個性を大切に個人の持てる能力を發揮してい要望にそって実施している。	採用時には年齢・性別などの制限はなく、まじめさや明るさ等を重視しての採用である。パソコン等、職員の得意なことを引き出し、得意な職員が不得意な職員にアドバイスしながら職員全体で共に補い合い、得意分野での能力を發揮できる体制がある。外部研修は勤務扱いとし、勤務調整を行う支援体制がある。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権意識を喚起すべく、朝礼時の啓発及び学習資料を提示し意識の向上の取り組みをしている。	毎月、住職を招聘して法話の開催や隣接する障がい者施設との合同行事による交流を通じて、職員全体で人権について理解を深める取組みがある。職員の心構えを提唱・掲示し、管理者が適宜指導を行う等、常に職員の人権意識を喚起する取組みがある。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員に対し研修の機会を設け、個人の力量に応じたトレーニングを推奨している。研修や資格取得の希望者の勤務調整をし向上心を損なわないよう十分に配慮している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会が主催する研修、勉強会に管理者及び職員が参加しサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の安心を確保する為の環境づくりを、常に心がけ、十分に傾聴出来る時間を設け受容、共感の心で接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心信頼して相談出来る様、話やすい環境作りに勤め、充分に要望を聞き入れられるように努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新たなサービスを受ける当初のケアが本人にとって、なじみのありかたか否かが、その後の状態の安定や介護職員との関係作りに大きく影響することを考慮し対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に寄り添い、利用者の思いや心の声を感じ取り常に学ぼうとする姿勢を忘れず、利用者と共に生活をするという姿勢を心掛けている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への近況報告や、園の状況等お知らせすると共に、必要な援助も依頼し、スタッフと家族が一体となって、利用者を支えていくことが出来ている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームへ来訪して頂く機会を設けたり、食事のお誘いや、電話交流など、利用者の要望を叶え、家族も安心して頂く様支援に努めている。	馴染みの知人や孫、行きつけの美容室の方の来訪による継続的な交流や、利用者の以前からの行きつけの理美容室の利用、お寺参りなど、利用者一人ひとりのかけがえのない馴染みの人や場とのつながりを継続する支援が行われている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を尊重し、スタッフも一緒になり交流を図れるように支援し、一つ屋根の下、お互いの思いやりが行きかうことを願い、日々の暮らしが豊かになるように見守っている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの直接の相談には誠意を持って応じている。また、こちらより電話にて近況を伺ったり、入院されている方のお見舞いや、緒手続きの代行に応じたり、出来る限りの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の意向を伺うことに努め、ケアプランやサービスを立案し、実施している。変化していく中で困難となった場合、利用者本人の思いを優先し家族の協力も求めている。	入居前面談や面会時等を通じて、家族の思いの把握に努めている。サービス担当者会議や日常のかかわりの中での利用者の動作や表情等から意向を汲み取り、フェースシートや個別の連絡帳等に記録し、職員全体でケアの内容について検討を行う取組みがある。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アルバム、調度品、装飾品等を手掛かりに、輝いていた時代懐かしい時代を語り合い、また、家族からの情報も生活背景を知る手掛かりとなっている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌、個人ケース記録を毎日記載し、一日の過ごし方や心身状態等を十分に把握している。連絡帳により情報の共有化を図っている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者との日常の関わりを通じて、入居者の希望の把握に努め、家族訪問時の声掛けや介護計画書の見直しを通じて、家族の思いの把握に努めている。日常の勤務やかフェイェンス時に、担当職員や他の職員からの情報を把握し、介護計画に反映させている。	サービス担当者会議にて利用者・家族・計画作成担当者等で意向及びケアの内容について話し合い、介護計画書を作成する取組みがある。日常のかかわりの中で、担当職員や職員からの情報を把握し、職員全体で介護計画書を見直し、作成を行う等の取組みがある。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録にケアの実践、結果、気づきや工夫を記入すると共に、早急な対応が必要な方は、情報の周知徹底を図りながら実施し、介護計画の見直しを行っている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や外出、買い物、訪問客の接待や家族交流にかかる支援等、利用者が必要とされる時に柔軟性を持って対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアグループの訪問、行事への参加、文化活動等利用者の思いを尊重し地域資源との協働を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターによる協力医として24時間の連絡体制を整えているが、この他にも利用者の希望する医療機関や、入居時からのかかりつけ医との信頼関係を築きながら、安心して医療を受けて頂く様支援している。	かかりつけ医の継続と協力医療機関の利用について本人・家族の意向に沿って支援している。ホーム協力医による週2回の定期的及び緊急時の往診や状態に応じた協力病院への受診の支援がある。かかりつけ医への受診については、ホームにて支援する取組みがある。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	雇用している看護職員が、利用者との関わりも多く持ち、信頼関係を深めていく中で相談に応じている。日常の健康管理や医療活用も充分に出来ている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との信頼に向けた関係作りは、日常より心がけ実践している。入院中のお見舞いや、病状の確認、必要な援助は適切に行い、入院期間を安心して過ごせるようにしている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所当初に出来ること、出来ないことを具体的に説明し、納得していただくと共に、かかりつけ医とも十分に話し合い、家族への説明を含め方針を共有し、関係者とチームで支えあう支援の取り組みをしている。	契約時に重度化や終末期における対応を具体的に説明し、利用者の意思をふまえた上で家族等の意向を確認している。状態変化時やその都度、意向を再確認し、本人・家族の意思を尊重しながら家族・主治医・ホーム間で協議し、方針を共有していく取組みがある。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は研修を受け、急変時の対応が迅速に出来る様、職場内にて折に触れ学習し訓練をしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立会いの訓練を実施し、避難方法を身に付けている。近隣の方の協力も得ている。グループホーム連絡協議会においても、それぞれのグループホームでの助け合いの場となるような協議をしている。	年に2回、消防署の立会いによる避難訓練や自主訓練を定期的実施し、避難経路の確認や避難方法等の指導が行われている。グループホーム連絡協議会で避難場所について提案し、他事業所と地域との協力体制について協議を行う取組みがある。	今後、校区の会議で地域への協力要請の呼びかけを行うことが予定されています。そのことを契機に地域住民の参加協力を得て避難訓練を実施するなど、非常災害時に地域の協力が得られるような体制作りを期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや日常の関わりの中で、職員の意識の向上を図り、尊厳を持った支援を常に心掛け、利用者の誇りやプライバシーを配慮した対応に努めている。	日常のかかわりの中で常に尊厳を持った支援を心がけ、利用者へ尊敬の思いを持つなど、職員の意識の向上を図る取組みがある。利用者の表情やタイミングを見計らったのさりげない声かけ等、利用者の自尊心やプライバシーに配慮した対応が見受けられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思を表出できるように、その方のペースに合わせた会話をし、介護者の思いが優先することの無いように働きかけをしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を最大限に受け入れられるよう職員体制を見直し、一人ひとりのペースを重視した支援を常に心掛けている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	園内で過ごされるとき服装や、外出時の装い等一緒に選び、一日一回は鏡を見て頂くような工夫をしている。無理をせず快適に過ごして頂けるよう支援をしている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望もメニューに取り入れ、料理に下ごしらえ、下膳やお盆拭き、テーブル拭き等、出来る力に合わせて介護計画に取り入れられている。	利用者の好みを反映させ、ホームの家庭菜園で採れた野菜を用いて季節感のある食事をホームで作り、提供している。野菜の下ごしらえやお盆・テーブル拭き等、利用者ができることを把握し、利用者と職員が協力しながら食事を楽しむ工夫や取組みがある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の様子もそっと伺いながら、食後のチェックも行っている。毎食ごとに細かな気配りをし、必要量を摂取して頂く様努めている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、週に一回口腔ケア専門医も来園しているので、一人ひとりの口腔状態の把握も出来ている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツやパットは出来る限り使用しない方針に向け、トイレ誘導や声掛けも一人ひとりの排泄のパターンや習慣をしっかりと掴み自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄パターンや習慣を十分把握し、利用者一人ひとりの様子をきめ細かく観察・見守りながら、タイミングを見てさりげなく声かけし、トイレ誘導を行う取組みがある。オムツは出来る限り使用せず、利用者の状況に応じて、トイレでの排泄を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	通じをよくする食事の提供や、水分摂取補給の実施、また、牛乳の提供時間等も考慮し、個々の体質に合わせた対応をしている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴順番が公平になるようなローテーションを組んだり、入浴拒否の傾向が見られる利用者に気持ちよく入浴して頂けるよう関わり方を工夫し、統一するなど楽しい入浴になるよう支援している。	利用者の体調に配慮しながら、希望や状況に応じて柔軟に対応している。入浴の回数や順番等、個別の希望に沿って柔軟に支援している。お風呂が苦手な利用者には、無理強いくることなく、清拭や声かけを工夫する等、快く入浴できるように支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活のリズムを大切にしている。不眠の方には日中穏やかに働きかけ、夜間の安眠に繋がるよう個人のペースを大切に支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の管理に携わっている。月毎に交代して服薬管理をしている為、理解は出来ている。薬の変更や臨時薬が処方されたときは、申し送りノートに記録し、症状の変化の合わせて把握出来ている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしさを維持出来る様、現在の能力に応じて、個人の希望を取り入れ、出来ることを無理なく、出来る範囲内でできるよう見守り支援をしている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿った、外出支援は実践出来ている。日用品の購入、気晴らしに外に出たい、目的地の指定等、利用者のニーズに応え、家族や地域の方々の協力により実現している。	利用者の些細な言葉や部屋の状況等から思いを汲み取り、地域の文化祭への参加や隣接する地域交流施設でのフラワー・カラオケ教室等への参加、買い物、花見、ドライブ、劇場の歌謡ショーへの見学等、利用者の希望に応じて、積極的に戸外に出かける支援が行われている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物レクリエーションやその他の外出時に、ご自身のお金で清算して頂き、安心感に繋がるような配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かけたいと思われる時に何時でもかけられるように本人の意思を尊重し対応している。手紙も同様の支援をし、園よりフォトレーターを送る際にも、先ず利用者に見て頂くようにしている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	視覚、聴覚による不快感や刺激が無いように、常に環境整備に配慮をしている。利用者と共に共用の空間が居心地の良い場所となるよう手作りの品や花を飾ったりと工夫をしている。	ホーム内にフラワー教室で活けた色とりどりの季節の花々が飾られるなど、季節を肌で感じる家庭的な雰囲気を出している。リビング内に畳のスペースがあり、円卓のテーブルで居心地良く過ごしている利用者の姿が見受けられた。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎの場としてもリビングは円卓で和やかに会話出来る様にとの願いがあり、また畳スペースもあり自由な移動出来る様にしている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族の思いを優先し心が落ち着く馴染みの物を持ち込まれ、居心地良く過ごすための居室作りの援助をしている。	寝具や家具、アルバム、テレビ、仏壇、家族写真などの思い出の品や馴染みの物が持ち込まれており、安心して居心地よく過ごせる居室づくりへの工夫や配慮がある。寝具は利用者の身体状況に応じて布団等を使用し、安全で使いやすいように工夫されている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手作りの居室のネームプレートの他に、花や人形、メッセージ等で工夫し本人が自ら生活の場所がわかるように配慮している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			